

第1章 村土の状況

1. 村土の概況

村土の利用にあたっては次のような特性を有する状況を生かし、将来を展望した村土全体の将来構想として、村土利用における総合的な施策を推進する必要があります。

(1) 地 勢

本村は、長野県の中央、諏訪盆地の南東に位置し、東西16.2km、南北5.9kmと東西に細長く、総面積は43.26km²です。

地形は、ハケ岳西麓の緩傾斜地でなだらかな高原が広がり、山岳部・山麓部・平坦部と大きく3つに分けることができます。

本村からは、360°の眺望の中に日本有数の山々を眺めることができ、東には雄大なハケ岳連峰を間近に擁し、西に諏訪湖、そのはるか後方に北アルプス連峰、南に南アルプス甲斐駒ヶ岳、北に蓼科山や霧ヶ峰などを望むというすばらしい眺望に恵まれた、緑と光あふれる高原の村です。

気候は内陸性で寒暖の差が大きく、夏期は湿度が低く過ごしやすい気候ですが、冬期は寒さが厳しく乾燥型の寒冷地であります。

(2) 歴史・文化的背景

本村は、国史跡阿久遺跡、村史跡臥竜遺跡などに代表される縄文時代を中心とした遺跡の宝庫で、村内の尾根上などには多くの遺跡が埋蔵されているほか、住居跡や土器、石器が発見されています。

諏訪明神の御狩場であった神野（原山）一帯は、武田信玄の下知状により住むことが禁止されていましたが、慶長15年（1610年）に諏訪頼水の開発政策により原山新田（現在の中新田）が誕生し、さらに各地で新田開発が進められました。

そして、明治8年（1875年）には8つの新田村が合併して原村が誕生しました。

その後は、戦後に行われた開拓、団地造成、観光開発などで地区は増えていますが、合併などを経ることなく現在に至り、平成27年には村制施行140周年を迎えました。

(3) 自 然

本村の東部にはハヶ岳・阿弥陀岳（2,805m）まで続く森林地帯があり、すばらしい自然環境と美しい景観の源となっています。標高約1,600mから上部の地域は山岳部となりハヶ岳中信高原国定公園の地域です。

標高約1,100mから1,600mにかけての森林地帯には、別荘やペンション、観光施設などがあり、人と自然の共生を感じさせる独特の美しい自然環境と景観をつくり出しています。

標高約900mから1,100mの地帯は比較的平坦部で農業を中心とした生産活動と生活が一体となっており、農村風景とともに周囲の山々の眺望がすばらしい地域です。

2. 土地利用をめぐる基本的条件の変化と課題

(1) 人 口

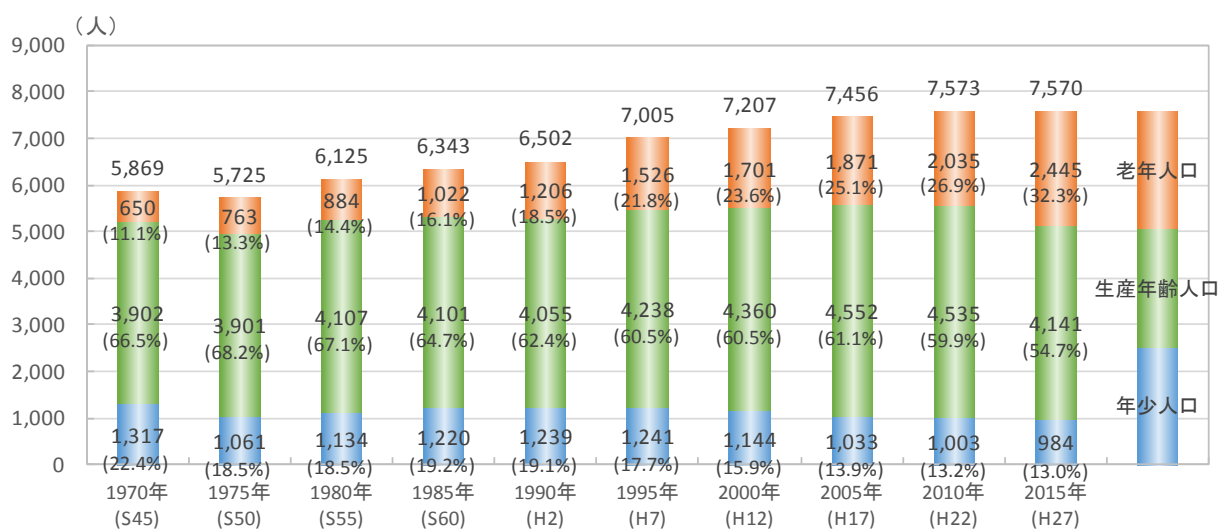
① 人口の推移

本村の人口推移は、昭和55年に6,000人を超えて、その後も人口が増え続け、平成27年には7,570人（国勢調査速報値）となっています。

村の活性化を図るため、やつがね団地や中央高原別荘地、ペンション区画の分譲などを行いながら多くの移住者、定住者を迎えています。

また医療費助成や子育て支援施策などを導入するとともに、役場周辺に小中学校や図書館、地域福祉センターなどが集まり、住民が安心して暮らせる環境が整っています。

【人口の推移】



資料：国勢調査

※2010年(H22)までは国勢調査、2015年(H27)の総人口は国勢調査速報値、

2015年(H27)の人口構成は毎月人口異動調査の年齢構成比を乗じた推計値

② 人口の動態

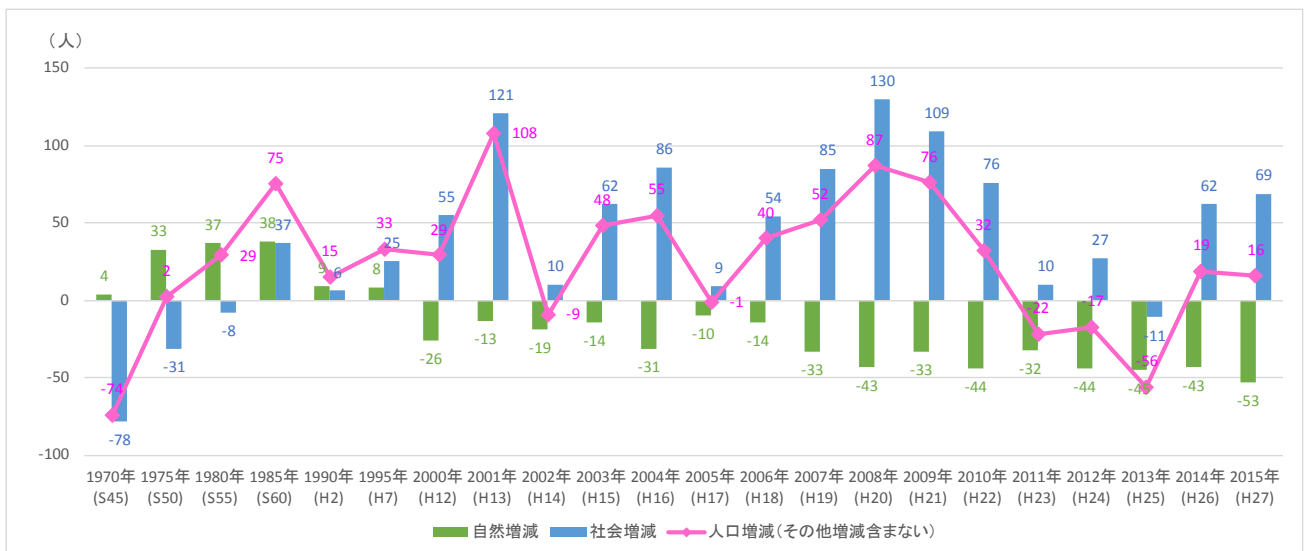
人口動態の推移をみると、人口が増加していた平成7～22年頃にかけては、転入者が多く、増加の大きな要因でした。

しかし自然動態をみると、平成8年以降は減少傾向が続いています。

社会動態の増加が鈍化の傾向にあり、今後は減少に転じることが予想されます。

従来から子育て支援など展開していますが、特に若者定住や子育て支援の充実に努めながら、自然動態を改善していくことが今後の課題です。

【人口動態の推移】



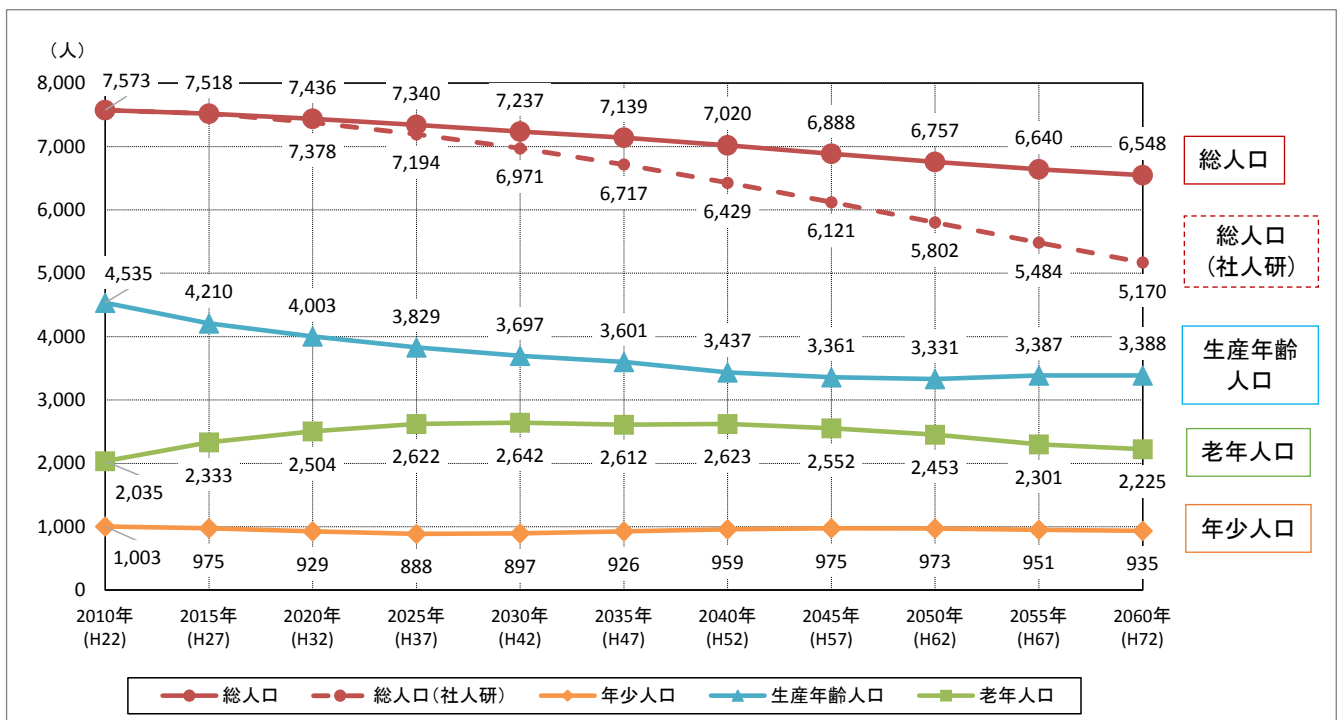
資料：毎月人口異動調査

③ 将来人口の目標

全国的な、人口減少・少子高齢化の時代を迎え、本村でも今後は人口減少に転じていくと予想されます。

移住・定住施策や、子育て・福祉・教育施策、産業の活性化等に取り組むことにより、人口の減少を抑えて、平成37年の目標人口を7,340人としています。

【原村の人口推計】



原村人口ビジョンにおける独自推計値

社人研：国立社会保障・人口問題研究所による推計値

(2) 自然環境

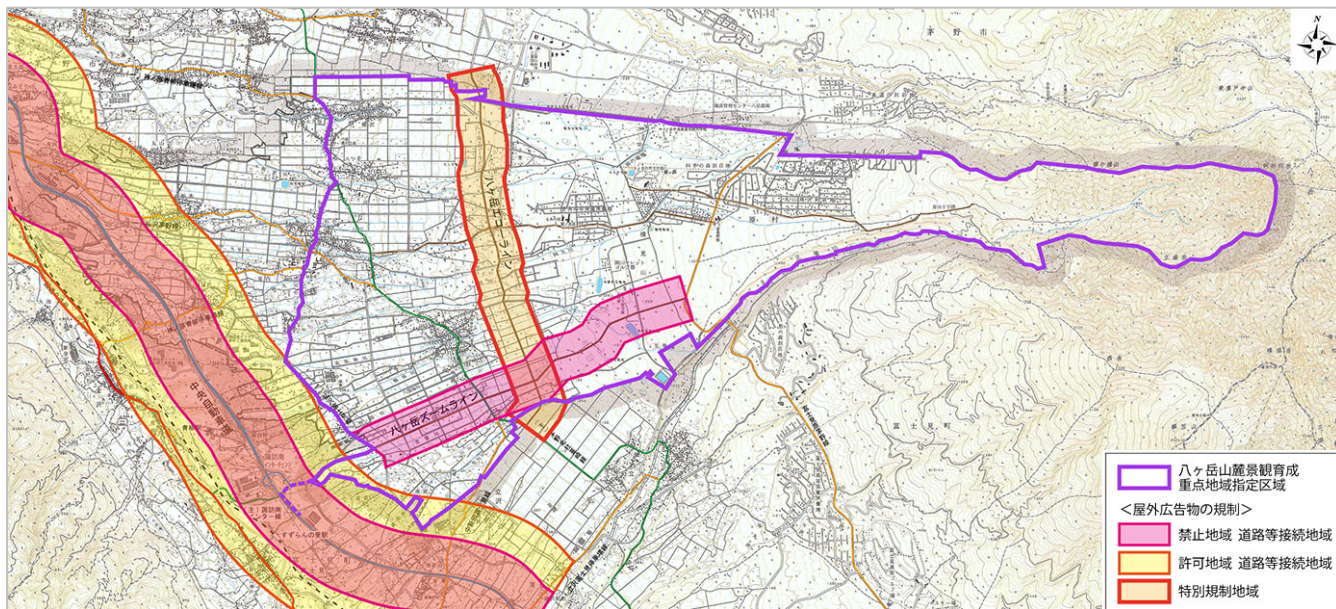
本村の優れた自然を永く後世に伝え、自然のもたらす限りない恩恵を享受できるよう、「原村自然環境保全条例」を制定し自然環境の保全及び、住みよい郷土を目指し取り組んでいます。

また、村内の主要地域を景観法に基づく長野県景観条例により八ヶ岳山麓景観育成重点地域に指定、さらにズームラインやエコーラインなどの幹線道路沿線を屋外広告物禁止地域・特別規制地域等に指定され、大きさや色などを制限した統一案内看板の整備を推進するなど、自然と調和した環境・景観保全を進めています。

こうした開発規制や景観形成を行ってきたことが、すばらしい自然環境及び景観を生み、本村の魅力を高め、人々が集まり村の活性化を進める一因となっています。

今後も住民参画による環境保全対策を講じる中で、条例の見直しや開発基準の強化など、住民・開発業者の理解と協力を得ながら取り組みます。

【景観行政区域図】



(3) 生活環境

本村は15の集落（地区）からなり、多くが約2キロおきに点在しているという特色があります。また、役場周辺に学校や図書館などの公共施設、商店などのサービス施設が集積し、コンパクトにまとまっています。

平成3年頃から中央高原一帯に多くの移住者を迎え、住宅が点在するようになりました。

これに伴い、生活環境や住民生活への多様な対応が求められています。

① 住 宅

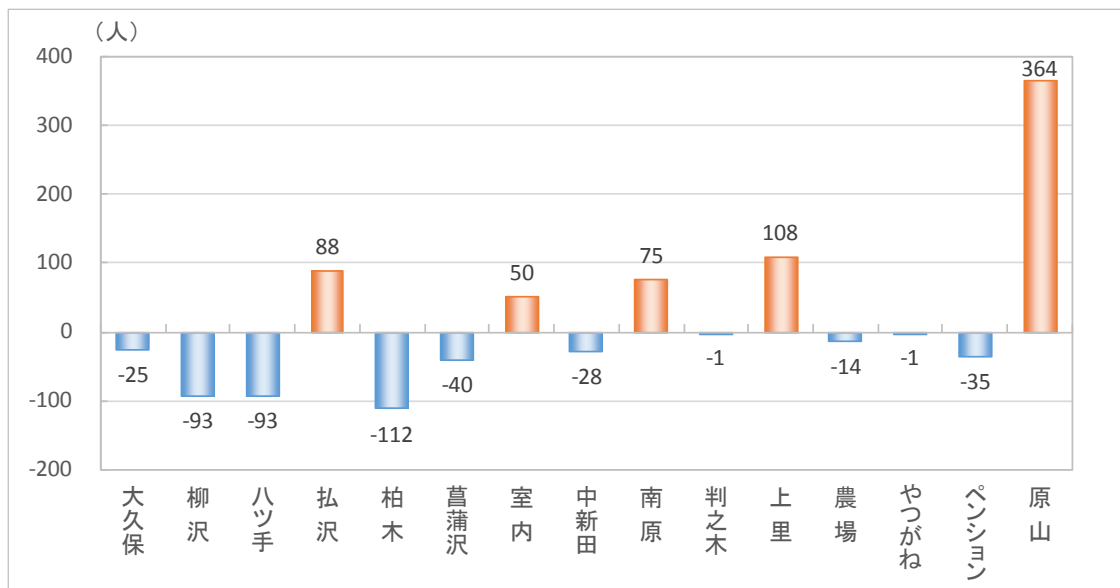
各地区における平成27年度までの10年間の人口推移を見ると、原山自治会が364人と村内で最も人口が増えています。この他、上里や払沢、南原、室内地区で人口が増えましたが、柏木、柳沢、ハツ手など多くの地区では減少しています。

原山自治会は、八ヶ岳中央高原の森林地帯への転入が顕著で、この他にも増加している地区では、住宅立地が進んでいます。しかし、人口が減少している地区では、空き家なども少しずつ増えています。

一方、村営住宅は5棟あり、低所得者や中堅所得者支援に提供しています。

さらに若者の移住・定住促進に向け、若者世帯の住宅取得に対して助成制度を設けています。

【10年間の地区別人口の増減（平成17年度-平成27年度）】



資料：住民係

② 水環境

本村は、富士川、天竜川の最上流に位置し、村内を流れる河川はすべて諏訪湖に流入しています。本村は水質の保全と生活環境の向上のため、昭和60年度から諏訪湖流域関連特定環境保全公共下水道事業として整備を進め、面整備は終了し、普及率79.6%、接続率97.3%（平成27年3月時点）となっています。

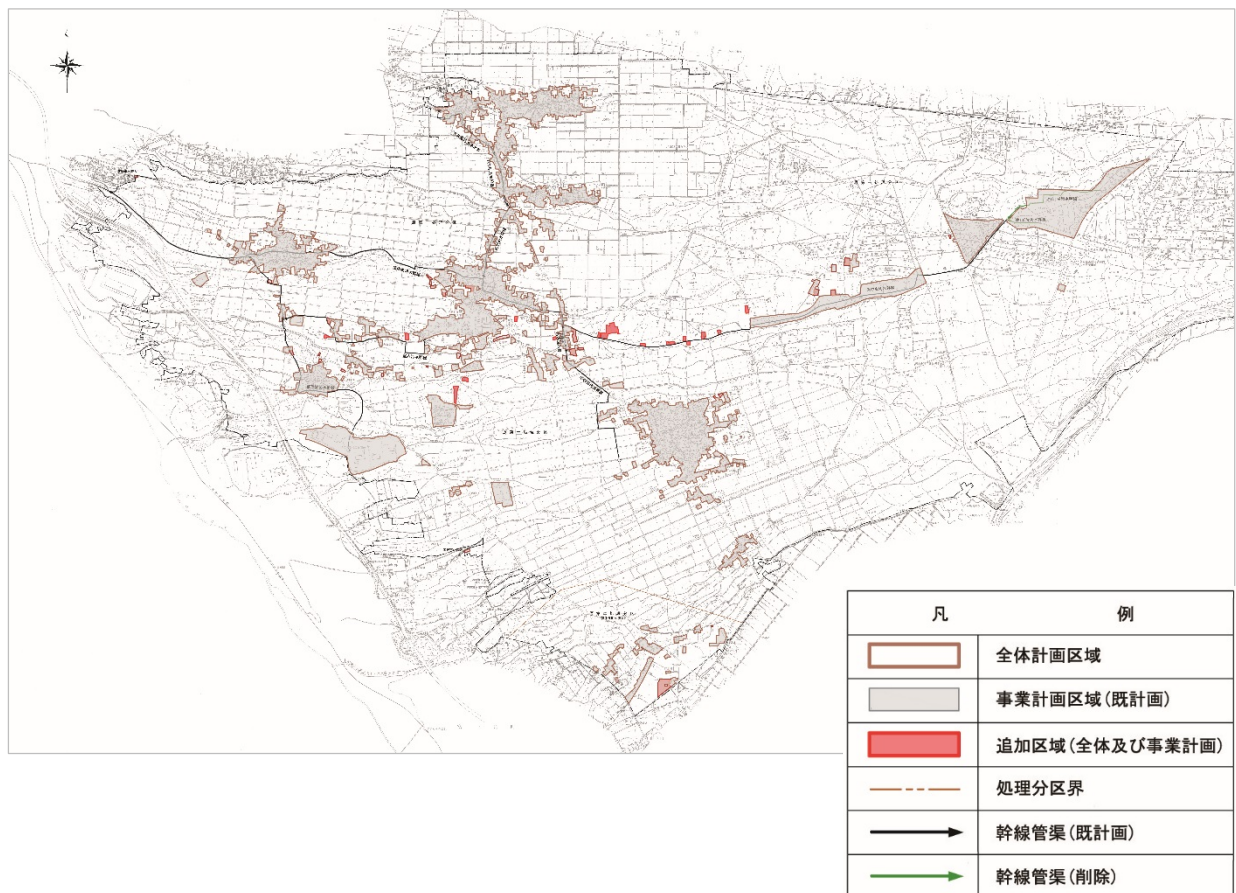
下水道の整備により、生活排水による河川への負荷は軽減されていますが、下水道整備区域外への合併処理浄化槽整備にも取り組んでいます。

今後は、下水道接続の普及促進や合併処理浄化槽設置、老朽施設の計画的更新や長寿命化に取り組めます。

一方、本村の上水道普及率は99.7%（平成27年3月時点）となっており、ほぼ全ての世帯に水道水を供給しています。

上水道の水源は7箇所ありますが、今後も安全・安心・安定した供給ができるよう維持・管理に努めるとともに、新たな水源の確保についても検討します。

【下水道計画区域図】



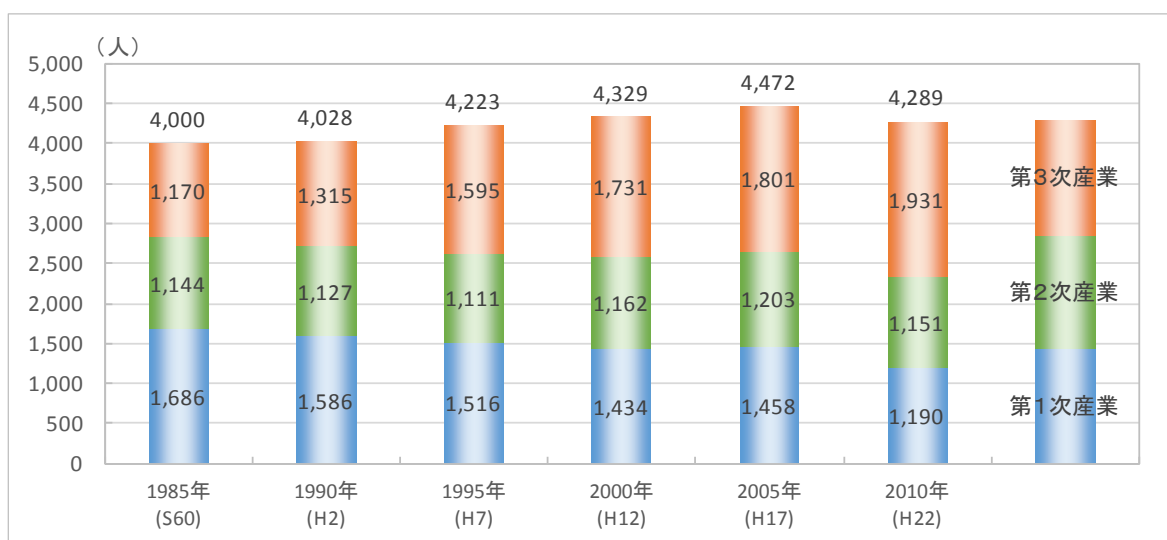
(4) 産 業

本村の産業は高原野菜を中心とした農業を基幹として、ペンションや高原の観光スポットがあるため観光業も盛んです。また、村内に工業団地があり、企業や工場も立地しています。

これらの産業は活力ある村づくり及び経済活動における重要な基盤であり、産業間の連携によっては、さまざまな効果を発揮する可能性を持っています。

村の特色を活かした産業振興のためにも、適正な土地利用及び経済活動支える村づくりが必要です。

【産業別就労人口の推移】



資料：国勢調査

① 農 業

本村は、夏場の冷涼な気候を活かし、日本一の生産量を誇るセロリやブロッコリー、パセリ、ハウレンソウなど高原野菜の産地です。

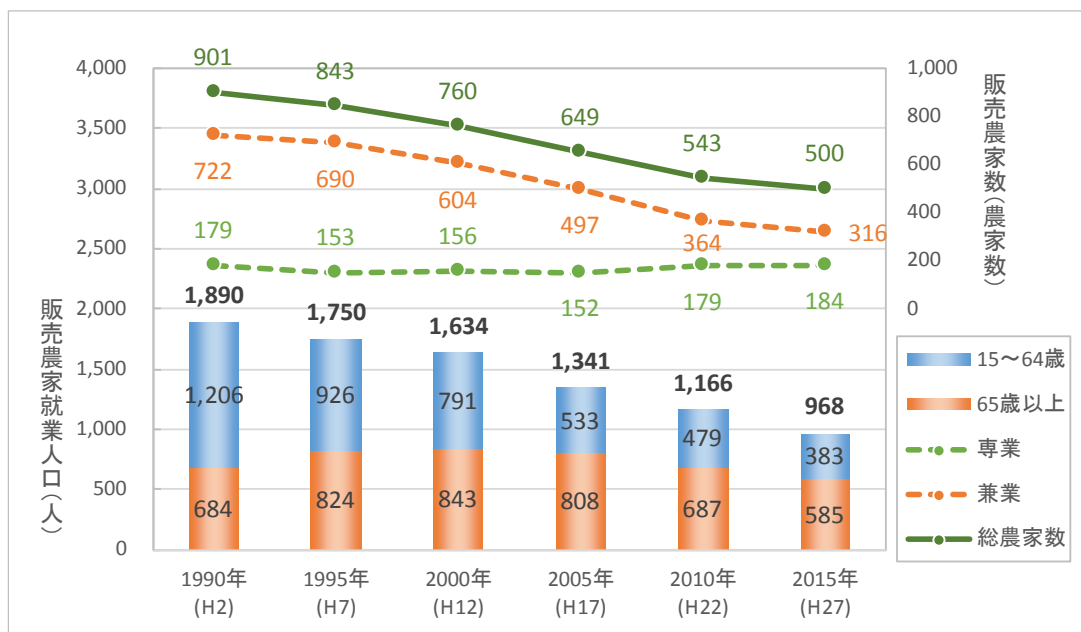
さらに、日照の豊かさと昼夜の温度差から色鮮やかで日持ちのする花き栽培も盛んで、日本一の生産高を誇るアネモネをはじめ、全国屈指の産地となっています。

しかし近年は、農家数や農地が減少傾向にあり、耕作されない田畑も増えています。さらに野生動物による鳥獣被害対策の必要性が高くなるなど厳しい状況に置かれています。

今後も村の気候を活かした作物の栽培、加工品の開発や、「原村ブランド※」の創出など、農業を取り巻く環境改善が急務となっています。

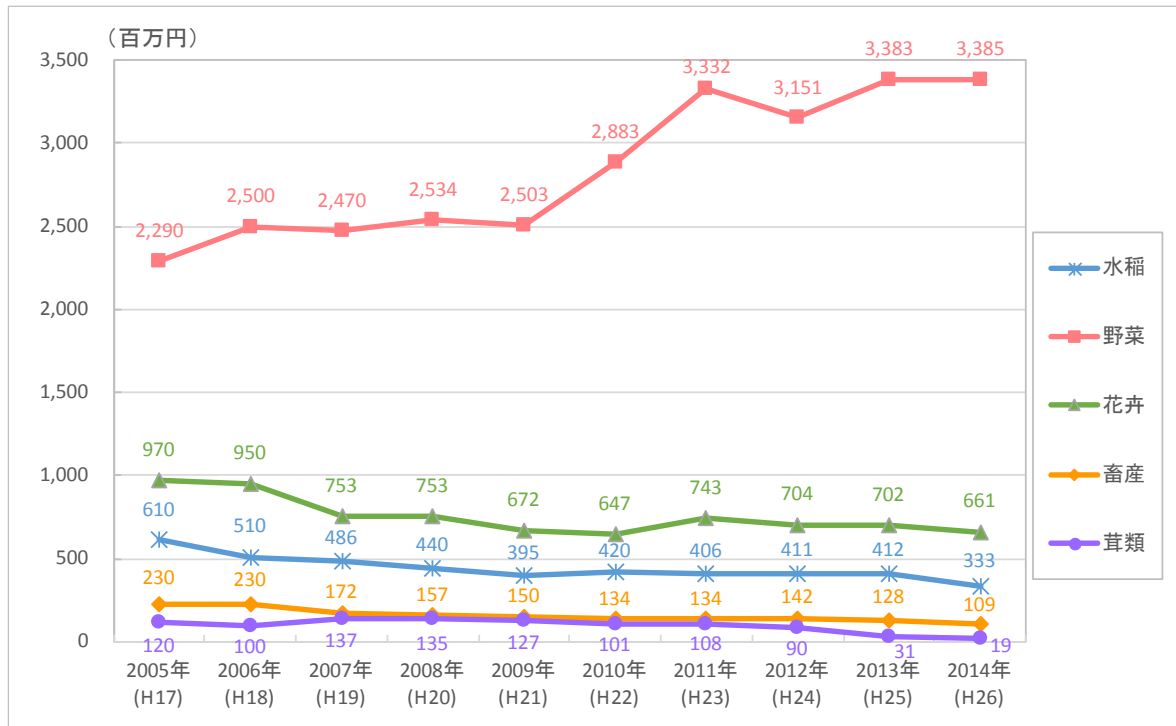
※ブランド: 消費者やユーザーなどから一定の評価を得ている商標や名称。その商標や名称などにより、安心感や価格、サービスへの信頼感、または高品質感を与えることができること。

【販売農家・就業人口の推移】



資料：農林業センサス調査 ※2015 (H27) は速報値

【作物別農業生産額の推移】



※野菜に芋・雑穀を含む

資料：原村農業技術者連絡協議会

② 観 光

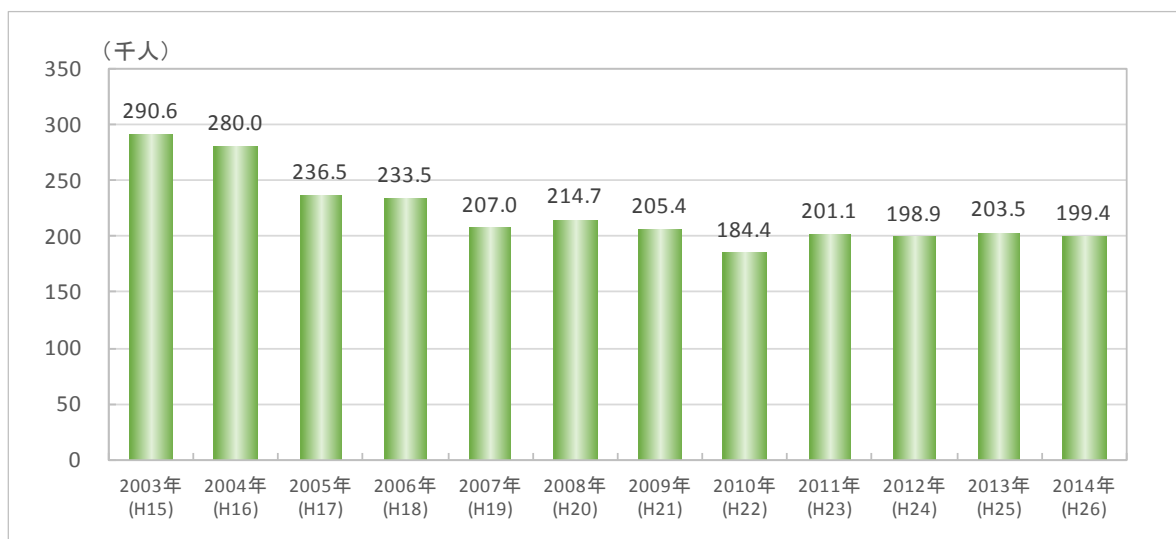
本村の観光は、夏場を中心に豊かな自然と涼を求める観光客で賑わっています。高原の気候と澄んだ空気、水とハヶ岳山麓の雄大な自然地にペンションやハヶ岳自然文化園、ハヶ岳農場、ハヶ岳美術館、もみの湯などの観光施設があります。また、多くの芸術家やクラフトマン*が本村に移住し、アトリエや工房を構えています。

これらを資源とした滞在型・周遊型の観光地ですが、観光来訪者数は減少傾向にあり、近年は年間20万人程度に落ち込んでいます。

今後は、村の観光資源の点検を進めるとともに、他の産業と連携した観光施策を広く展開して活性化を図ります。

※クラフトマン：伝統技術や工芸の技術を持った職人のこと。工芸家。

【観光地利用者数の推移】

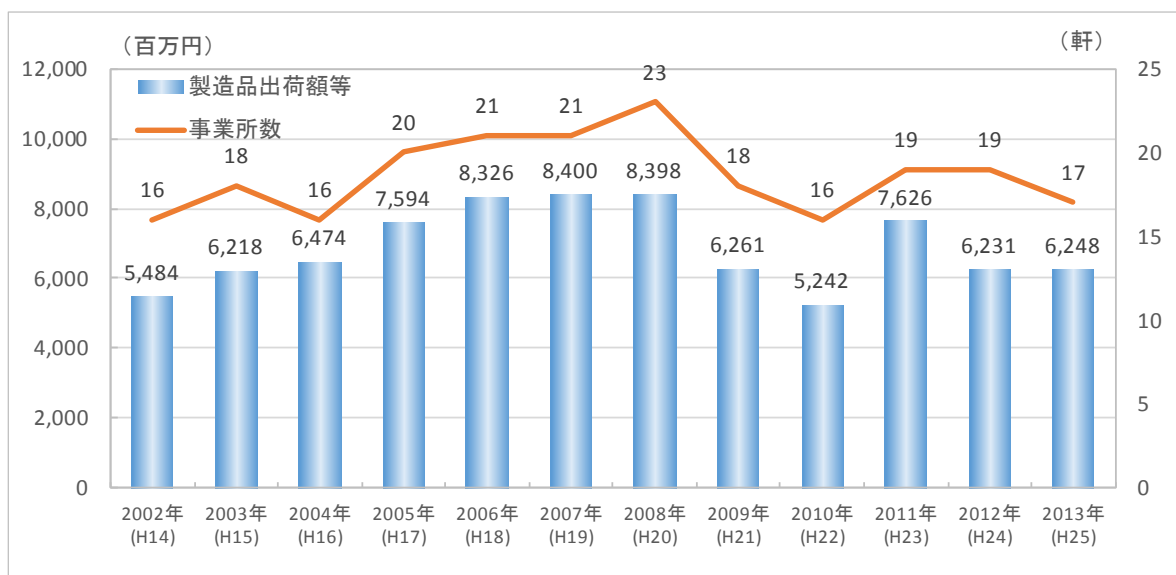


資料：長野県観光地利用者調査

③ 工 業

本村の工業は、製造業を中心に多くが零細企業です。工業団地を中心に企業が立地していますが、景気の変動に左右されながらも、諏訪地域を中心とした「NPO法人諏訪圏ものづくり推進機構」と連携し、周辺市町と横断的に取り組みながら産業振興に努めています。

【事業所数・製造品出荷額の推移】



資料：工業統計調査

④ 商 業

本村の商業は、経営規模・消費人口規模が小さい商店が多く、村内に点在しています。

村内近郊の大型店などに影響されがちですが、本村での生活支援や観光来訪者ニーズなどに合わせ、地産地消※や特産品開発、経営支援など村の商業振興につながる施策を展開しています。

※地産地消：地元で生産された農産物などを、地元で消費すること。

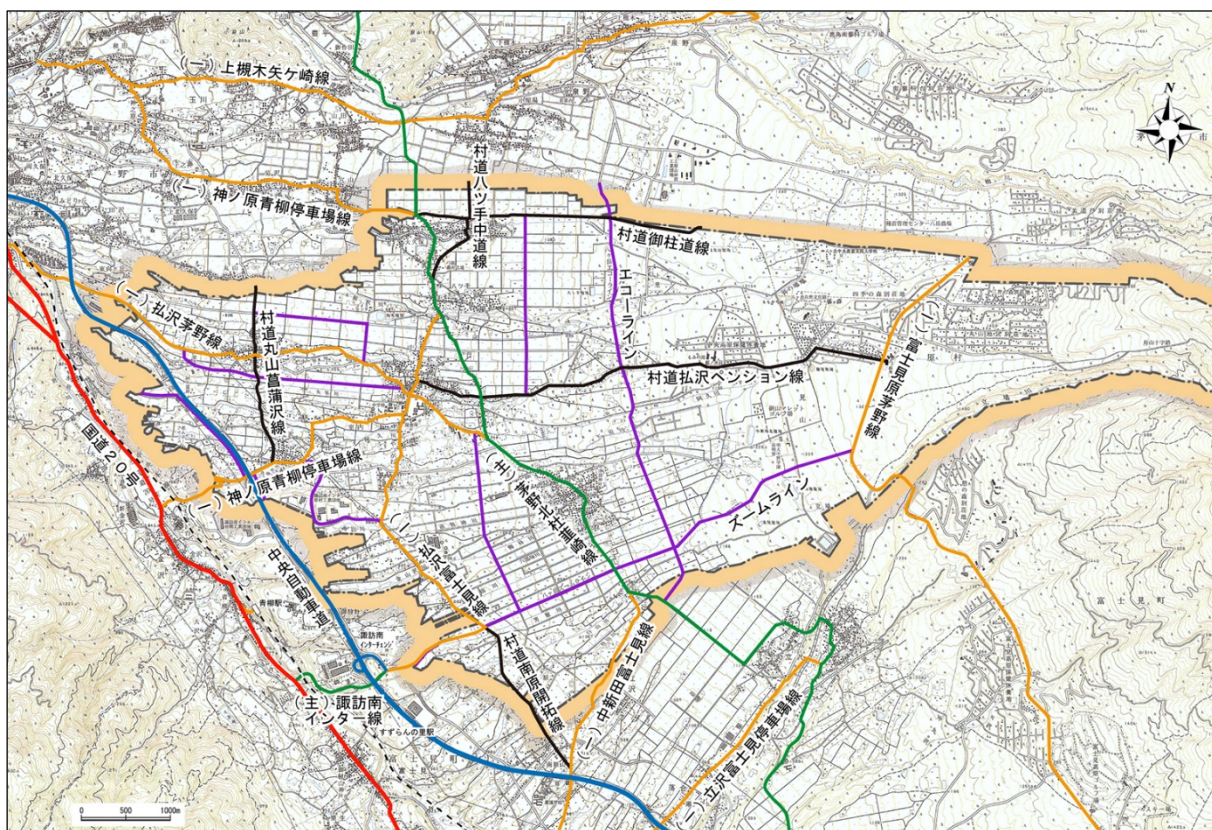
(5) 交 通

本村の道路網は、広域道路網として中央自動車道諏訪南インターチェンジが富士見町と原村の境にあり、東京都心まで約2時間半、名古屋まで約3時間程度の距離で都市部へのアクセスも良好です。

また、基幹となる道路は、国道20号に平行した主要地方道茅野北杜葦崎線や一般県道が5路線、主要村道のエコーライン、ズームラインなどがあります。

一方、公共交通機関は、村内に鉄道駅はなく、最寄りのJR中央本線「茅野駅」「富士見駅」などを利用しています。バス交通では、茅野駅と村を結ぶバスの他、村内の移動を支える「セロリン号」、中央自動車道から高速バスを利用するためのバス停があります。

【村内道路網図】



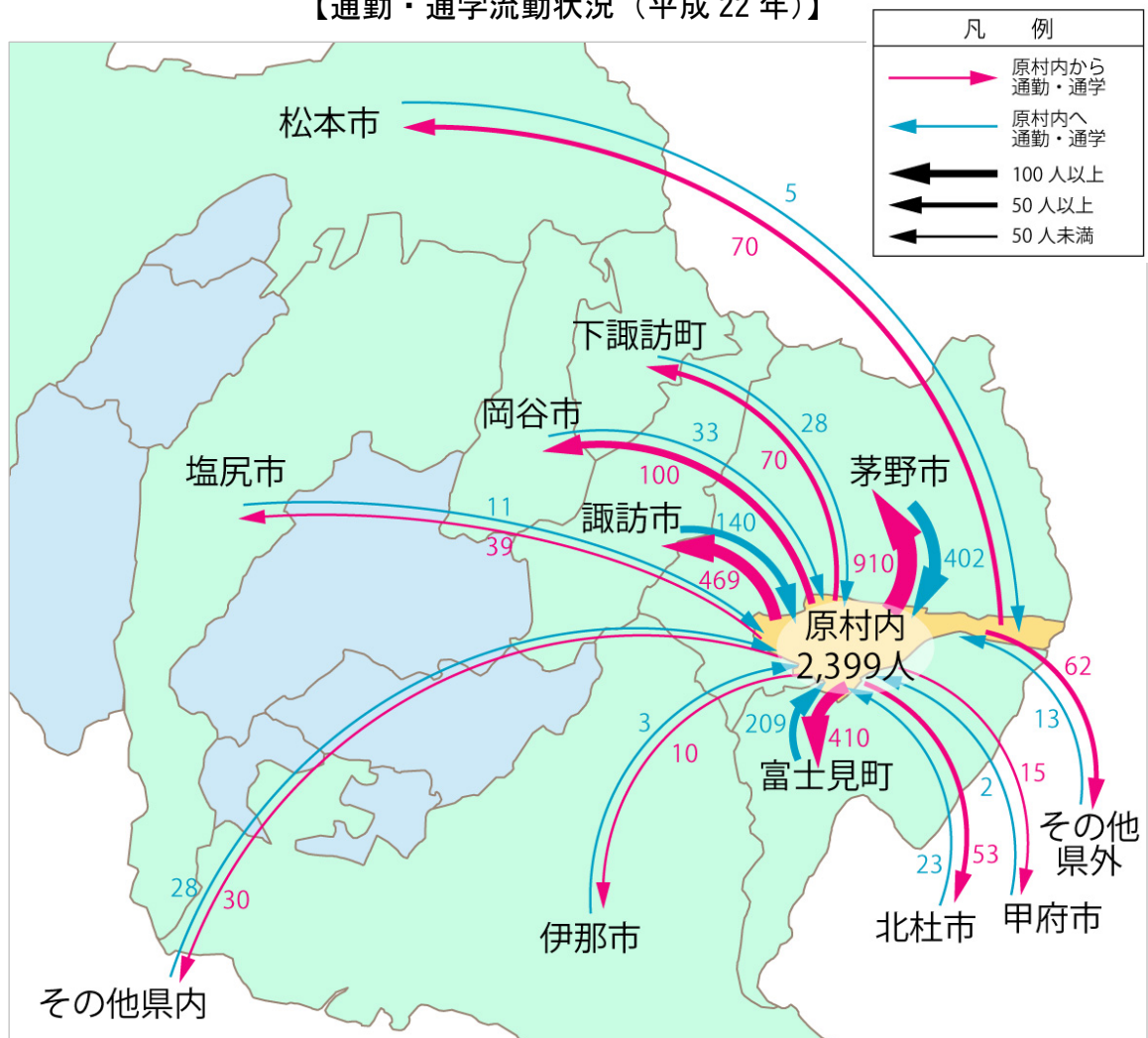
(6) 通勤・通学流動

本村に住む就業者及び通学者は、約4,700人（平成22年国勢調査）ですが、そのうち約2,300人は他の市町村へ通勤・通学で流出しており、流出率は48.9%になります。

これに対し、他市町村から本村への通勤・通学は約900人（流入率19.1%）です。

近年、村外への流出者は増加の傾向にあり、諏訪地域に加え、山梨県の北杜市なども増えています。このことは若者の就農率の低下や、村内の事業所の再編など、経営規模等への影響が懸念されています。

【通勤・通学流動状況（平成22年）】



資料：平成22年国勢調査